7. 『介護キャリア学習』教材動画スライド

介護人材のキャリア（通常版）

介護の仕事① 介護とは何か

介護とは、**高齢者や障害をもつ方の日常生活を支援しながら、可能な限り自立した生活を続けられるようサポートする専門職**です。具体的な仕事の例としては、食事や排泄、入浴といった**身体的な介助**だけでなく、**コミュニケーション**を通じて利用者の気持ちに寄り添い、**ケアプランの作成**や**他職種との連携**、**家族との相談・調整**などを行います。



介護の理念

利用者の尊厳や個性を尊重し、その人が持つ力をできるだけ維持しながら生活できるよう支援すること

介護の本質

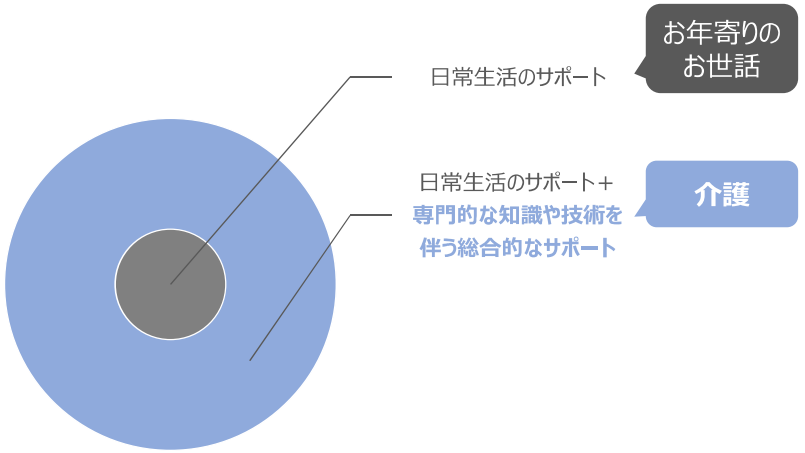
利用者の暮らし全体を見据え、本人や家族、医療・行政などとも協力し、総合的なサポートを実現すること

1章　職業理解

介護の仕事

介護の仕事② 「お年寄りのお世話」との違い

「お年寄りのお世話」は、家族や身近な人が、**高齢者の日常生活をサポートすること**を言います。例えば、買い物や掃除、食事の準備、通院の付き添いなどです。一方で「介護」は生活のお世話だけにとどまりません。**高齢者や障害をもつ方の身体機能や精神状態を総合的に把握**し、**自立支援や生活の質の向上を目的とした総合的なサポート**を行います。



介護の仕事③「看護」との違い

「介護」と「看護」は、どちらも**人々の生活や健康を支えるという点では共通**していますが、その**目的やアプローチに明確な違い**があります。

比較項目	看護	介護
目的	医療行為を通じた治療や回復の補助	**生活全般の支援と生活の質の向上**
活動の対象	主に病気やケガで治療が必要な患者	**日常生活支援が必要な高齢者や障害者**
具体的な役割	薬の投与、創傷処置、バイタルサインのチェック	**排泄・入浴・移動の身体介助、自立に向けたリハビリ的支援、コミュニケーション促進**
主な活動場所	病院、診療所、医療施設	**特別養護老人ホーム、訪問介護、自宅**
重視する価値観	医療的視点で病気の治療・管理に焦点	**利用者の尊厳を尊重し、その人らしい生活を支援**
アプローチ	医師の指示に基づく医療行為中心	**日常生活のサポート中心**

1章　職業理解

介護の職場

介護の職場① 施設サービス

介護の職場には、いくつかの種類があります。最初に紹介するのは**施設サービス**です。要介護の認定を受けた利用者が**施設に入居して**介護を受けます。24時間体制のケアが必要な方も多く、生活全般の支援が求められます。

■施設サービスの例

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	• 常に介護が必要で、在宅生活が困難な方に対して、日常生活の介助や機能訓練、健康管理などを提供
介護老人保健施設	• 自立して在宅復帰することを目指す利用者に対して、看護、介護、機能訓練、必要な医療などを提供
介護医療院	• 長期療養が必要な要介護者に対して、医療的ケア、看護、機能訓練、日常生活の介護を提供

参考：https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/commentary/service.html

介護の職場② 居宅サービス

介護の職場には「居宅サービス」もあります。これは、施設サービスとは異なり、**利用者が自宅で生活を続けながら**介護を受けるサービスで、要介護と認定された方が対象です。訪問・通所・短期入所・福祉用具の貸与や販売など、全部で12種類のサービスがあります。

■居宅サービスの例

訪問介護（ホームヘルプサービス）	• 介護職員が自宅を訪問し、入浴・排泄・食事など、日常生活の介助を行う。自宅での生活を続けるために最も基本的な支援。
通所介護（デイサービス）	• 利用者は日帰りでデイサービスセンターに通い、入浴・食事・機能訓練などを受ける。人との交流や生活リズムの維持にもつながる。
短期入所生活介護（ショートステイ）	• 特別養護老人ホームなどの施設に短期間泊まり、入浴・排泄・食事などの介護を受ける。介護する家族の負担軽減にも役立つ。

参考：https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/commentary/service.html

介護の職場③ 地域密着型サービス

地域密着型サービスは、住み慣れた地域で暮らし続けられるように、**市町村ごとに提供される介護サービス**です。原則として、自分が住んでいる市町村の事業所しか利用できません。

■地域密着型サービスの例

地域密着型通所介護（小規模デイサービス）	• 定員18人以下の小さなデイサービスで、入浴・排泄・食事などの介護や機能訓練を日帰りで受ける。少人数のため、きめ細かいケアが特徴。
小規模多機能型居宅介護	• 1つの事業所が「通い（デイ）」「訪問」「泊まり（ショートステイ）」の3つのサービスを提供。利用者の状態や生活に合わせて、柔軟に使えるのが特徴。
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	• 認知症の高齢者が少人数で共同生活を送りながら、介護職の支援を受ける。家庭的な環境の中で安心して生活できる。

参考：https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/commentary/service.html

1章　職業理解

社会の動き・業界の動向

社会の動き① 少子高齢化と労働力不足

日本の人口は減少しており、労働力人口が減る一方で、高齢者の割合は増加しています。高齢者が増えれば、介護が必要な人も増えることになります。**介護の仕事は今後ますます重要になり、日本社会に欠かせない存在になっていく**と考えられます。

日本社会の現状	介護職の必要性	介護職の役割と可能性
2040年に65歳以上の人口が約35%に	高齢者が増えれば介護が必要な人も増える	高齢者の生活を支える専門職
2070年に人口は九千万人を割り込む	一方で介護人材は不足	医療、看護、リハビリとの連携の中心
		利用者と家族や地域をつなぐ

参考（人口推計）：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21481.html

社会の動き② 地域包括ケアシステム

介護が必要な高齢者が増える中で、**高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる**ように、「**地域包括ケアシステム**」という仕組みが進められています。これは、医療・介護・住まい・生活支援などを地域の中で一体的に提供することで、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを目指す取り組みです。

5つのサービスを一体的に提供

- 🏠 **住まい**（住み慣れた自宅や地域）
- 🩺 **医療**（かかりつけ医などによる在宅医療）
- 👴 **介護**（訪問介護や通所サービスなど）
- 🔄 **予防**（介護状態になるのを防ぐ取組）
- 🤝 **生活支援・見守り**（配食、買い物支援、地域の見守り活動など）

地域ごとの特徴

- 🏙 都市部：75歳以上人口の急増に対応した**マンション内の支援体制**づくり
- 🏡 農村部：人口は減少傾向でも、高齢化率が非常に高く、**住民同士の支え合い**が鍵
- 🏝 離島：医療資源が少ない中で、**ICTや看護師の訪問体制**も活用

➡ **介護の仕事をする人は重要な役割を担う**

- 利用者の日常生活支援を通じて地域での暮らしを具体的に支える
- 医療職や行政と連携し、チームケアの一員として働く
- 地域住民やボランティアとも協力し、支援の輪を広げる

参考：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/index.html

社会の動き③ テクノロジーの進化と介護への応用

近年、科学技術は急速に進歩しており、その技術は介護の現場でも活用され始めています。**テクノロジーの導入**は、介護の利用者の生活をより豊かにしたり、介護をする人の負担を減らしたりする可能性を秘めており、**これからの介護には欠かせない要素となる**と考えられます。



出所：
https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.kaigosapuri.carerecordspapp&hl=ja

介護への応用が進む技術の例
- 高齢者の動きを見守るセンサー
- 移動を助けるロボット
- 記録や情報共有の効率化システム

なぜテクノロジーの活用が必要か
- 人手不足を補ったり、介護の質を向上させたりすることが期待されている

介護職の役割
- テクノロジーを活用しながら、高齢者の方の気持ちに寄り添い、その人らしい生活をサポートすることが求められる

業界の動向① 外国人介護人材の受け入れ

日本の介護業界では、経済連携協定（EPA）に基づくルートや、在留資格「特定技能」などを活用して、外国籍の方が介護の仕事に就くための道が開かれています。介護人材には、**国籍が異なる人とも協力して、チームとして質の高いケアを提供する姿勢や能力**が求められます。

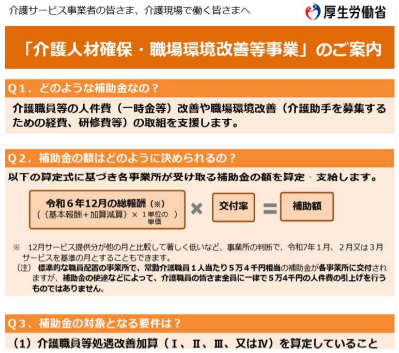


全ての介護職に求められること

- **効果的なコミュニケーション**
  日本語でのコミュニケーション能力はもちろん、相手の文化や背景を理解し、尊重しながら円滑なコミュニケーションを図る
- **チームワーク**
  多様な背景を持つ同僚と協力し、それぞれの専門性を活かしながら、チームとして質の高いケアを提供する
- **学び続ける姿勢**
  日本の介護制度や技術は常に変化している。国籍に関わらず、新しい知識やスキルを積極的に学び続ける姿勢が大切

業界の動向② 労働環境や待遇の改善

介護現場では、人手不足だけでなく、働く人の「賃金が低い」「仕事がきつい」といった課題も続いています。こうした中で、**国は介護職の処遇改善や職場環境の改善を支援する制度**を整えています。より働きやすい介護の職場をつくることは、今後の人材確保にもつながります。


介護サービス事業者の皆さま、介護現場で働く皆さまへ　厚生労働省

「介護人材確保・職場環境改善等事業」のご案内

Q1．どのような補助金なの？

介護職員等の人件費（一時金等）改善や職場環境改善（介護助手を募集するための経費、研修費等）の取組を支援します。

Q2．補助金の額はどのように決められるの？

以下の算定式に基づき各事業所が受け取る補助金の額を算定　支給します。

令和６年12月の総報酬（※）（（基本報酬＋加算減算）×１単位の単価）× 交付率 ＝ 補助額

※　12月サービス提供分が他の月と比較して著しく低いなど、事業所の判断で、令和7年１月、２月又は３月サービスを基準の月とすることもできます。
（注）標準的な職員配置の事業所で、常勤介護職員１人当たり５万４千円相当の補助金が各事業所に交付されますが、補助金の使途などによって、介護職員の皆さま全員に一律で５万４千円の人件費の引上げを行うものではありません。

Q3．補助金の対象となる要件は？

（1）介護職員等処遇改善加算（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、又はⅣ）を算定していること

出所：https://www.mhlw.go.jp/shogu-kaizen/index.html

処遇改善加算制度

- 介護職の給料や働き方改善のために国が制定
- 介護事業所が、介護職員に手当や一時金を支給したり、研修や職場改善の取組に使うことを支援

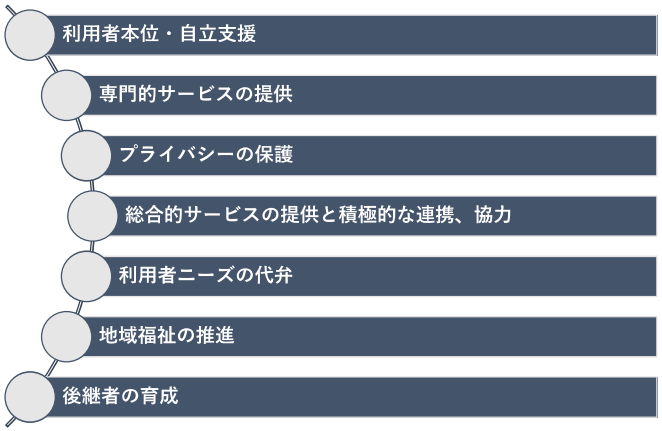
介護職として大切な視点

以下の意識を持ち、現場で改善を実施していくこと
- 「待遇改善は、利用者にとってもよいケアにつながる」
- 「より良い職場を、自分たちでつくる意識をもとう」

2章　職業意識

介護福祉士の倫理基準（行動規範）

介護福祉士とは、介護を必要とする人の生活を支え、身体介護や日常生活の支援を行う国家資格を持つ専門職です。介護の現場では、専門性だけでなく、**高い倫理観や責任感**が求められます。このような専門職としてのあり方を示すために、**日本介護福祉士会**という公益社団法人が、**倫理基準（行動規範）**を定めています。



参考： https://www.jaccw.or.jp/rinrikijun_koudoukihan.pdf

①利用者本位・自立支援

介護福祉士は、**利用者を一人の人間として尊重**し、**その人が自分らしく生きていけるように支援**します。すべての人に対して平等に接し、利用者の思いや希望を大切にする**「利用者本位」の姿勢**が基本です。また、できることはできるだけ自分で行えるように支援する**「自立支援」**も、重要な役割のひとつです。

■ポイント

差別せず、尊厳を守る	• 国籍・性別・年齢・障害などにかかわらず、一人ひとりを大切にする
わかりやすく説明する	• 利用者の理解力に合わせて、丁寧に情報提供し、選択をサポート
自己決定を尊重する	• 本人の意志や考えを第一に考え、無理に決めつけない
根拠に基づく支援	• 心と体の状態をよく理解し、その人に合った方法で介護する

参考： https://www.jaccw.or.jp/rinrikijun_koudoukihan.pdf

②専門的サービスの提供

介護福祉士は、ただ「お世話をする人」ではありません。専門的な知識と技術をもとに、利用者一人ひとりの生活を支える**「介護の専門職」**です。質の高い介護サービスを提供するためには、日々の実践を振り返りながら、常に学び続ける姿勢が大切です。

■ポイント

専門職としての自覚を持つ	• 利用者の生活に深く関わる、責任ある仕事だと意識する
知識・技術の向上に努める	• 変化する制度やニーズに対応するために、学び続ける
利用者を“生活者”として理解する	• 一人の人間として、その人の人生や思いを大切にする
振り返りと改善を行う	• より良い介護のために、日々のケアを見直す習慣を持つ
提供した介護に責任を持つ	• 成果や課題に正面から向き合い、責任ある行動をとる
自身の健康管理を行う	• プロとして安定したサービスを提供するため、健康を保つ

参考： https://www.jaccw.or.jp/rinrikijun_koudoukihan.pdf

③プライバシーの保護

介護福祉士は、利用者の生活に深く関わる仕事です。だからこそ、**個人情報やプライバシーを守る**ことはとても重要です。利用者の信頼を得るためには、「話さない・見せない・漏らさない」という意識が必要です。

■ポイント

プライバシー権を尊重する	• 利用者が「自分の情報は守られている」と感じられるよう配慮する
情報の収集・使用には同意を得る	• 介護計画や記録を取るときは、きちんと説明し、了解を得る
秘密は絶対に守る（守秘義務）	• 業務中だけでなく、退職後も個人情報は口外しない
記録の管理・廃棄にも注意する	• 書類やデータの取り扱いに十分気をつける

参考： https://www.jaccw.or.jp/rinrikijun_koudoukihan.pdf

④総合的サービスの提供と積極的な連携、協力

介護の現場では、介護福祉士だけでなく、**看護師、医師、リハビリ職、ケアマネジャーなど、さまざまな職種と協力して支援を行います。**「一人ではなく、チームで支える」という考え方が大切です。より良いケアを提供するためには、情報を共有し、お互いの専門性を活かし合うことが求められます。

■ポイント

介護福祉士や保健医療福祉関係者との協働	• 利用者の生活を支えることに最善を尽くすことを共通の価値として、協働する
他の専門職や機関との連携	• 総合の創意工夫や努力によって、より質の高いサービスを提供できるようにする
情報を共有する	• 他職種との円滑な連携を図るため、情報を適切に共有する

参考： https://www.jaccw.or.jp/rinrikijun_koudoukihan.pdf

⑤利用者ニーズの代弁

介護福祉士は、利用者の代わりに**気持ちや希望を“声”として届ける役割**を持っています。利用者が自分の意見を伝えることが難しいとき、**その人の立場に立って行動する**ことが大切です。また、社会の不公平や制度の課題にも目を向け、**よりよい環境づくり**にも関わっていきます。

■ポイント

利用者の権利を守り、ニーズを代弁する	• 利用者が必要とする福祉サービスを、適切に受けられるよう支援する
社会に働きかける	• 不公平や問題がある場合には、他の専門職と連携し、社会に改善を求める

参考： https://www.jaccw.or.jp/rinrikijun_koudoukihan.pdf

⑥地域福祉の推進

介護福祉士は、利用者一人ひとりの生活を支えるだけでなく、**地域全体の福祉力を高める役割**も担っています。地域には、行政・施設・住民・ボランティアなど、さまざまな社会資源があります。それらを把握し、必要な支援につなげることで、**誰もが安心して暮らせる地域づくり**に貢献します。

■ポイント

社会資源の活用と開発に努める	• 利用者が多様な選択肢から支援を選べるように支える
地域住民と協力し、福祉のまちづくりに参加する	• 福祉計画や制度の動きを理解し、地域とともに課題解決に取り組む
地域の介護力を高める	• 家族や地域の人々とも連携し、介護の支え手を広げていく

参考： https://www.jaccw.or.jp/rinrikijun_koudoukihan.pdf

⑦後継者の育成

介護福祉士の専門性や経験は、次の世代へと受け継がれていくべき大切な財産です。より良い介護を未来へつなぐためには、**後輩への指導や職場づくりにも積極的に関わる姿勢**が求められます。「現場での学び」を共有し、**信頼される先輩**として行動することが、介護福祉の質を高めることにもつながります。

■ポイント

良き手本となり、誠実に人材を育てる	• 自らも学び続けながら、公正かつ誠実な態度で後輩を支える
働きやすい職場づくりに取り組む	• マネジメント能力を活かし、チームの働きがいや雰囲気を大切にする

参考： https://www.jaccw.or.jp/rinrikijun_koudoukihan.pdf

3章　コンピテンシー

3章　コンピテンシー

A. 対人関係スキル・協働力

介護人材に求められる力

介護人材には、専門的な知識や技術はもちろん、利用者やチームと信頼関係を築きながら、日々のケアを実践する力が求められます。こうした「**実践的な力**」のことを**コンピテンシー**と呼びます。本章では、介護職に必要なコンピテンシーを以下の2つの視点から学んでいきます。





A. 対人関係スキル・協働力	B. 専門職としての実践力・自己成長力
1.コミュニケーション能力	1.状況判断力
2.チームワーク、協働力	2.介護技術と体力
3.多様性理解と信頼関係づくり	3.学習力・成長力

A-1 コミュニケーション能力｜利用者や家族とのコミュニケーション

介護の現場では、**利用者との信頼関係**がケアの質を大きく左右します。一方的に話すのではなく、**「相手の気持ちをくみとる姿勢」**が大切です。家族に対しても、安心して介護を任せてもらえるよう、丁寧でわかりやすい説明が求められます。

■ポイント

傾聴	• 相手の話をさえぎらず、最後までしっかり聴く • 共感の言葉を添えることで安心感を与える
わかりやすい説明	• 難しい専門用語は使わず、相手に合わせた言葉を選ぶ • 表情や身ぶりも交えて、伝わるように工夫する
非言語コミュニケーション	• やさしい表情、うなずき、声のトーンが安心につながる • 言葉だけでなく「態度」でも信頼感を伝える



補足
- ✓ 「話す力」よりも「聴く力」が大切。
- ✓ 不安や戸惑いのある利用者・家族に寄り添う姿勢が信頼関係の第一歩です。

3章　コンピテンシー

A-1 コミュニケーション能力｜職員や他職種とのコミュニケーション

介護はチームで行う仕事です。介護人材は、他の職員や看護師・リハビリ職などの専門職と連携しながら、利用者に最適なケアを提供していきます。そのためには、**正確に伝える力**と、**相手の意見を尊重する姿勢**の両方が求められます。

■ポイント

報告・連絡・相談（報連相）	• 情報はタイミングよく、正確に共有する • 小さな変化でも気づいたらすぐに伝えることが大切
相互理解と連携	• 相手の専門性や立場を尊重して話し合う • 「伝える」だけでなく「聴く姿勢」も連携のカギ
記録や申し送りの工夫	• 事実と主観を分けて記録する • 誤解を生まないよう、簡潔かつ具体的に伝える



補足
- ✓ チーム内でのズレや伝達ミスは、利用者の安全に直結します。
- ✓ 「伝わったかどうか」を意識して、確認する姿勢も大切です。

28

3章　コンピテンシー

A-2 チームワーク、協働力

介護の現場では、一人で全てのケアを行うことはできません。介護職同士はもちろん、看護師・リハビリ職・栄養士・家族など、さまざまな人と協力しながらケアを進める必要があります。そのためには、お互いを尊重し、情報を共有しながら、一つのチームとして動く力が求められます。

■ポイント

役割の理解と尊重	• 自分と他職種の役割を理解し、無理な介入はしない • 相手の立場や意見を大切にする
情報共有と協力	• 利用者の状態や対応内容を共有して連携する • お互いに助け合いながら業務を進める姿勢が大切
良好な人間関係づくり	• 挨拶や声かけ、感謝の言葉を大切にする • 日頃の関係性が、いざという時のチーム力につながる



補足
- ✓ チームケアは「一人でがんばる」よりも「みんなで支える」考え方です。
- ✓ 良い人間関係が、利用者へのより良い支援につながります。

29

3章　コンピテンシー

A-3 多様性理解と信頼関係づくり

介護の現場では、**利用者だけでなく、共に働く職員の間にも多様性があります**。年齢、性別、国籍、文化、宗教、価値観など、背景の異なる人たちと関わる中で、**一人ひとりを尊重し、理解しようとする姿勢**が大切です。こうした姿勢が、利用者との信頼関係、そして職場内の良好な関係づくりにつながります。

■ポイント

相手の背景や価値観を尊重する	• 国籍、文化、宗教、生活習慣のちがいを否定せず、まずは知る / 「こうあるべき」と決めつけない態度が信頼を生む
利用者にも職員にも多様性があることを認識	• 利用者の考え方の違いに寄り添う / 出身国が異なる職員、年齢差のある職員とも円滑に協働するための気づかい
違いを認め合い、安心できる関係をつくる	• 言葉の壁がある相手にも、表情や態度で信頼を示す • 日常の声かけや丁寧な関わりが、安心感と絆を育てる



補足
- ✓ 多様性を「受け入れる」のではなく、「当たり前」として関わる意識が必要です。
- ✓ 利用者にも、仲間にも、信頼は「理解しようとする姿勢」から生まれます。

30

3章　コンピテンシー

B. 専門職としての実践力・自己成長力

B-1 状況判断力

介護の現場では、利用者の状態は日々変化し、時には予期せぬ出来事が起こることもあります。そうしたときに必要なのが、**「今、何が起きているのか」「どう対応すべきか」を判断する力**です。正しく判断することで、**利用者の安全を守り、事故やトラブルを未然に防ぐ**ことができます。

■ポイント

👀 利用者の変化に気づく力	• 顔色、動作、表情、言葉づかいの「いつもとの違い」を見逃さない / 小さな変化にも敏感に対応する姿勢が大切
⚠️ 緊急時の判断と初期対応	• 転倒・体調不良など、急な出来事にも冷静に対応 • 状況を整理し、すぐに報告・連絡・応援を求める
🔍 優先順位を考える力	• いくつかの状況が同時に発生したとき、何を優先すべきかを判断 / 自分ひとりで抱え込まず、周囲と連携して対応する



補足
- ✓ 判断に迷ったら、「安全・安心を最優先」に考えましょう。
- ✓ 経験を重ねることで、判断力は少しずつ育っていきます。

B-2 介護技術と体力

介護の仕事では、移乗（身体を別の場所へ移すこと）や入浴、排泄などの**身体介護**を行う機会が多くあります。そのため、**正しい介護技術を身につけ、安全に実践する**ことが必要です。また、長時間の立ち仕事や夜勤など、身体的な負担も大きいため、**基礎的な体力や体調管理**も重要になります。

■ポイント

💪 正しい介護技術の習得	• 移乗介助、食事介助、入浴・排泄介助などの基礎スキル • 利用者の安全と自分の身体を守るための知識と技術
📏 ボディメカニクスの活用	• 身体に負担をかけずに動くための姿勢・動作の工夫 • 腰痛などの職業病を防ぐためにも重要
🚴 体力・体調管理	• 長時間の立ち仕事や夜勤への備え • 自分自身の健康状態を保つことも「ケアの質」の一部



補足
- ✓ 「体力がある＝強い」ではなく、「疲れにくい身体づくり」がポイント。
- ✓ 技術と体力の両方があってこそ、安全で安心な介護ができます。

B-3 学習力・成長力

介護の仕事は、一度技術や知識を身につけたら終わりではありません。利用者の状態の変化、医療や介護技術の進歩、関連する制度の改正など、新しい情報やスキルが求められます。そのため、**学び続け、自分自身を成長させようとする意欲**が、質の高いケアを提供し続ける上で不可欠となります。

■ポイント

📚 新しい知識・技術の習得	• 認知症ケア、看取りケア、医療的ケア、新しい介護機器の操作方法など、専門性を高めるための学習意欲 / 最新の介護保険制度やガイドラインの理解
🤔 経験からの学びと改善	• 日々の実践を客観的に振り返る / 成功体験だけでなく、うまくいかなかったことやヒヤリハットも分析し、次に活かす / 他のスタッフの優れた点を観察し、取り入れる柔軟性
🌱 向上心と自己研鑽	• 資格取得などスキルアップを目指す意欲 / アドバイスやフィードバックを素直に受け止める態度 / 自身のキャリアプランを考え、目標を持って業務に取り組む姿勢

補足：「学習力・成長力」は、単に知識を詰め込むことではありません。現場での経験を通じて得た気づきを大切にし、それを次のケアに活かしていくプロセスそのものが重要です。

4章　キャリア

キャリアパス

キャリアパスとは何か

キャリアパスとは、介護職員が経歴を積み上げるために必要な**「仕事の成長の道すじ」**のことです。私たちがどのように経験や資格を積み、ステップアップしていくかを考えるための道しるべになります。



背景

- これまでの介護の現場では、**働く人がどのように成長していけるのかが、はっきりと見えにくい**という課題があった
- 人手不足が続いており、**働く人が安心して長く続けられるしくみを整える必要性**が指摘されていた
  →キャリアパスの導入が進んでいる

メリット

- 職員にとっては、**自分の「できること」や「これから学ぶこと」が分かりやすくなる**
- 施設や事業所にとっては、**忙しい中でも職員を正しく評価でき、人材育成にもつながる**

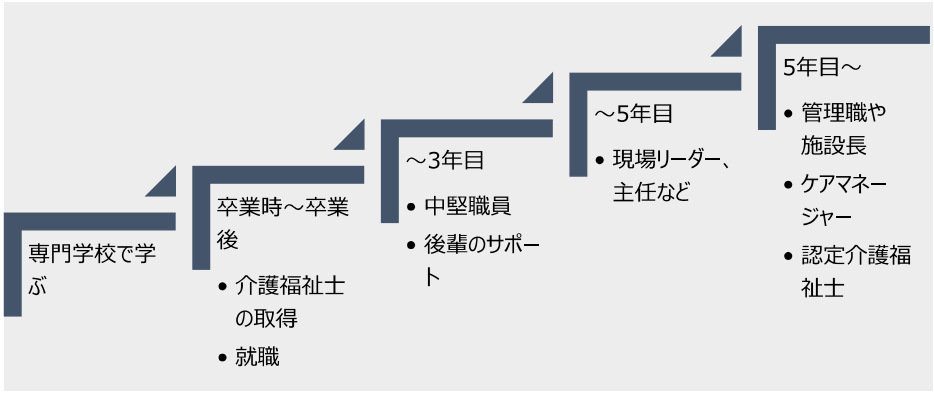
※キャリアパスはすべての事業所で同じというわけではなく、施設の規模や方針、求める人材像に合わせて、独自のキャリアパスを作っている場合もある

参考：https://tryt-worker.jp/column/kaigo/detail/ka296/

代表的なキャリアパス

介護の仕事は、学びと経験を重ねながら、成長を実感できる職業です。将来は、専門性をさらに深めたり、マネジメント職を目指したりすることができます。

■キャリアパスの例



介護福祉士とは何か

介護福祉士とは、介護の専門職として**国家資格**を有し、高齢者や障害をもつ方の身体的・精神的なケアを総合的に担うプロフェッショナルを指します。**高齢化社会の進行とともにその需要は高まっています。**

資格取得要件	• 指定の養成校で学んだ後に国家試験合格 • 実務経験を積んだうえで国家試験合格
必要能力	• 身体介護技術、コミュニケーション技術、倫理観、自立支援知識など
業務内容	• 身体ケア、ケアプラン作成、連携・調整、認知症対応
活躍の場	• 特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホーム、在宅ケア
社会的意義	• 生活の質向上、地域福祉の向上、高齢化社会における需要の増加

4章　キャリア

キャリアプラン

キャリアプランとは何か

キャリアプランとは、将来の自分の姿を思い描きながら、「いつ・何を・どうするか」を考える計画のことです。
介護の仕事を続けながら、どのように成長していきたいかを自分で考えることを指します。

キャリアパスとのちがい

- キャリアパスは、業界全体に共通する「成長の道すじ」
- キャリアプランは、**自分自身が選ぶ・立てる計画**
- つまり、キャリアパスが「地図」なら、キャリアプランは「自分の旅の予定表」

どうして必要なの？

- 介護の仕事は、日々の業務に追われやすく、先のことを考える余裕がなくなりがち
- こんな介護職になりたい、○年後に○○の資格をとるといった目標や計画があることが、モチベーションや自信につながる

ポイント
- ✓ キャリアプランに「正解」はない
- ✓ 大切なのは、自分の性格や強み、生活のペースに合わせて、無理なく実行できる計画を立てること

4章　キャリア

キャリアビジョン

キャリアプランの立て方

キャリアプランは、「いつ・何をするか」を時間の流れにそって考えると立てやすくなります。

■キャリアプランの例

年数	目標
卒業後1年以内	介護福祉士の試験に合格
就職後3年以内	チームリーダーになって、後輩育成に力を入れる
就職後7年以内	認定介護福祉士の資格を取得。介護のプロフェッショナルとして専門性をさらにみがく

■補足

- ✓ **小さな目標も大切**：「1年後に資格を取る」といった大きな目標だけでなく、「週に1回は先輩に相談する」「苦手な記録業務を練習する」といった小さな行動目標を決めておくと良い
- ✓ **計画は“変えてもいい”**：一度決めたら絶対にその通りにしなければならないものではない。体調や生活の変化、仕事の経験によって、目標が変わることもある

キャリアビジョンとは何か

キャリアビジョンとは、「将来こうなりたい」と思う自分の理想の姿です。どんな介護職になりたいか、どんな働き方をしたいかを思い描くことで、自分の目指す方向が見えてきます。

キャリアプランとのちがい

- キャリアプランは「計画」＝目標やステップを具体的に考えるもの
- キャリアビジョンは「将来こうありたい」という理想のイメージ

どうして必要なの？

- 自分の価値観や思いを大事にしながら、仕事を続けるため
- 仕事に迷ったときに、自分の「原点」に戻るため
- プランを立てるときの“ゴール”として、方向を示してくれる

「どんな介護職になりたいか？」
「どんなふうに人の役に立ちたいか？」
自分自身に問いかけながら、“なりたい未来の自分”を少しずつ思い描いていきましょう。

キャリアビジョンを考えるヒント



キャリアビジョンは、「なりたい自分」を見つけるところから始まります。自分の気持ちや、学びの中で感じたことをもとに、少し先の未来をイメージしてみましょう。

■自分に問いかけてみる

キャリアビジョンを考えるときは、**「どんなふうに働きたいか」という気持ち**がヒントになります。

- 介護について学んで、心に残ったことは何ですか？
- 実習やボランティアで、うれしかったこと・印象に残った場面はありますか？
- 将来、どんな人の力になりたいですか？
- 自分の得意なことや、好きなことはどんなことですか？
- 「こんな介護職になりたいな」と思う先輩や先生はいますか？

■ビジョンにかたちはなくてもいい

何かの「資格」や「肩書き」ではなくても大丈夫です。たとえば、こんな思いでも立派なビジョンです：

- 「相手の話をよく聴ける介護職になりたい」
- 「言葉が通じなくても、笑顔で安心してもらえるような人になりたい」

■少しずつ考えていけばOK

まだはっきりしていなくても大丈夫です。授業や実習、周りの人との関わりの中で、「自分はこうなりたいかも」と思う気持ちを、少しずつ見つけていきましょう。

EOF

8. 『介護キャリア学習』教材動画ナレーション原稿

スライド2

これから、介護のキャリアについて一緒に学んでいきましょう。

介護とは、高齢者や障害をもつ方の日常生活を支援しながら、可能な限り自立した生活を続けられるようサポートする専門職です。

具体的な仕事の例としては、食事や排泄、入浴といった身体的な介助だけでなく、コミュニケーションを通じて利用者の気持ちに寄り添い、ケアプランの作成や他職種との連携、家族との相談・調整などを行います。

介護が大切にしている考え方、理念は、単なるお世話や看護とは異なります。

介護では、利用者の尊厳や個性を尊重し、その人が持つ力をできるだけ維持しながら生活できるよう支援することを目指します。

介護の本質は、利用者の暮らし全体を見据え、本人や家族、医療・行政などとも協力し、総合的なサポートを実現することなのです。

スライド3

介護の仕事について深く理解するために、お年寄りのお世話との違いを考えてみましょう。

「お年寄りのお世話」は、家族や身近な人が、高齢者の日常生活をサポートすることを言います。

例えば、買い物や掃除、食事の準備、通院の付き添いなどです。

一方で「介護」は、生活のお世話だけにとどまりません。

高齢者や障害をもつ方の身体機能や精神状態を総合的に把握し、自立支援や生活の質の向上を目的とした総合的なサポートを行います。

具体的には、入浴や排泄、移動の介助といった身体的ケアだけでなく、認知症などの症状に対する理解や適切なコミュニケーションの技術、さらに医療機関や行政サービスとの連携など、専門的な知識や技術を必要とする場面が多く含まれます。

加えて、介護保険制度など公的支援を活用し、ケアプランを策定するなど計画的かつ継続的な支援を行うのも特徴です。

以上のように、「お年寄りのお世話」と比べ、「介護」は専門性や総合性が特徴です。

利用者の尊厳と安全を守りながら生活全体を支える重要な役割を担っています。

スライド4

「介護」と「看護」は、どちらも人々の生活や健康を支えるという点では共通していますが、その目的やアプローチに明確な違いがあります。

看護は医療行為を中心とし、医師の指示のもとで患者の治療や回復を補助することが主な役割です。具体的には、薬の投与や創傷処置、バイタルサインのチェックなど、病気やケガの治療や管理に直結した業務が多く、病院や診療所など医療の現場で活動することが基本とされます。

一方、介護は高齢者や障害者の日常生活全般を支援するもので、排泄や入浴、移動などの身体介助や、

自立に向けたリハビリ的アプローチ、コミュニケーションの促進など、生活の質を維持・向上させるための広範なケアを行います。

もちろん、医療が必要な状況では看護との連携が欠かせませんが、介護の大きな特徴は「病気を治す」よりも「より良く生きる」ための日常生活のサポートに重きを置く点です。

そのため、介護の現場では利用者本人の意思や尊厳を尊重し、その人らしい生活を送れるよう手助けすることが最も重要視されます。

スライド6

介護の職場には、いくつかの種類があります。最初に紹介するのは施設サービスです。要介護1から5の認定を受けた利用者が施設に入居して介護を受けます。24 時間体制のケアが必要な方も多く、生活全般の支援が求められます。

施設サービスの例として、3つ紹介します。

1つ目は、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）です。

常に介護が必要で、在宅での生活が難しい方に対して、入浴・排泄・食事などの日常生活の介護や機能訓練、健康管理などのサービスを提供します。

2つ目は、介護老人保健施設です。

自立して在宅復帰することを目指す利用者に対して、看護、介護、機能訓練、必要な医療などを提供します。

3つ目は、介護医療院です。

長期療養が必要な要介護者に対して、医療的ケア、看護、機能訓練、日常生活の介護を提供します。

スライド7

介護の職場には「居宅サービス」もあります。

これは、施設サービスとは異なり、利用者が自宅で生活を続けながら介護を受けるサービスで、要介護と認定された方が対象です。

訪問・通所・短期入所・福祉用具の貸与や販売など、全部で 12 種類のサービスがあります。

ここでは、代表的な3つのサービスを紹介します。

1つ目は、訪問介護（ホームヘルプサービス）です。

介護職員が自宅を訪問し、入浴・排泄・食事など、日常生活の介助を行います。

自宅での生活を続けるために最も基本的な支援です。

2つ目は、通所介護（デイサービス）です。

日帰りでデイサービスセンターに通い、入浴・食事・機能訓練などを受けます。

人との交流や生活リズムの維持にもつながります。

3つ目は、短期入所生活介護（ショートステイ）です。

特別養護老人ホームなどの施設に短期間泊まり、入浴・排泄・食事などの介護を受けます。

介護する家族の負担軽減にも役立ちます。

以上の３つの他にも、訪問リハビリ、福祉用具の貸与や販売など、生活を支える多様なサービスがあります。

スライド８

地域密着型サービスは、住み慣れた地域で暮らし続けられるように、市町村ごとに提供される介護サービスです。
原則として、自分が住んでいる市町村の事業所しか利用できません。
サービスは 10 種類ありますが、ここでは３つの例を紹介します。
１つ目は、地域密着型通所介護（小規模デイサービス）です。
定員 18 人以下の小さなデイサービスで、入浴・排泄・食事などの介護や機能訓練を日帰りで受けます。
少人数のため、きめ細かいケアが特徴です。
２つ目は、小規模多機能型居宅介護です。
１つの事業所が「通い（デイ）」「訪問」「泊まり（ショートステイ）」の３つのサービスを提供します。
利用者の状態や生活に合わせて、柔軟に使えるのが特徴です。
３つ目は、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）です。
認知症の高齢者が少人数で共同生活を送りながら、介護職の支援を受けます。
家庭的な環境の中で安心して生活できます。
以上、紹介した３つの他に、看護師などが中心となる「看護小規模多機能型居宅介護」や「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」などもあります。

スライド１０

日本の人口は減少しており、労働力人口が減る一方で、高齢者の割合は増加しています。高齢者が増えれば、介護が必要な人も増えることになります。介護の仕事は今後ますます重要になり、日本社会に欠かせない存在になっていくと考えられます。

◆ 日本社会の現状

いまの日本は「世界で最も高齢化が進んでいる国」と言われています。 国立社会保障・人口問題研究所によると、2040 年に 65 歳以上の人口が全人口に占める割合は約 35%になると推計されています。また、2025 年現在の人口は 1 億人を超えていますが、2070 年には九千万人を割り込むと推計されています。

◆ 介護職の必要性

高齢者が増えれば、介護が必要な人も増えることになります。 しかし、介護の仕事に就く人が足りていないため、「介護職不足」が指摘されています。このままでは、介護が必要な人がいても、支える人がいないという社会になってしまいます。

◆ 介護職の役割と可能性

こうした背景から、介護の仕事は今後ますます重要になると考えられます。 介護職は、単なる「お世話をする人」ではありません。 高齢者の生活を支える専門職であり、医療・看護・リハビリとの連携の中心であり、利用者と家族や地域とつなぐ社会的役割を担う。「超高齢社会の支え手」として、介護職はこれからの日本社会に欠かせない存在となるのです。

スライド１１

介護が必要な高齢者が増える中で、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、「地域包括ケアシステム」という仕組みが進められています。これは、医療・介護・住まい・生活支援などを地域の中で一体的に提供することで、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを目指す取り組みです。

詳細

地域包括ケアシステムとは、「重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすことができる」ことを目指す仕組みです。
これは、団塊の世代がすべて 75 歳以上になる 2025 年を目標に、全国の市町村で整備が進められています。
このシステムでは、以下の５つのサービスを一体的に提供することが重要とされています。
・住まい（住み慣れた自宅や地域）
・医療（かかりつけ医などによる在宅医療）
・介護（訪問介護や通所サービスなど）
・予防（介護状態になるのを防ぐ取組）
・生活支援・見守り（配食、買い物支援、地域の見守り活動など）

地域ごとの特徴

地域包括ケアシステムは、全国一律の形ではなく、地域ごとの課題や特性に合わせて作られることが特徴です。
たとえば、
・都市部：75 歳以上人口の急増に対応したマンション内の支援体制づくり
・農村部：人口は減少傾向でも、高齢化率が非常に高く、住民同士の支え合いが鍵
・離島：医療資源が少ない中で、ICT や看護師の訪問体制も活用
各市町村が介護保険事業計画を 3 年ごとに見直しながら、地域の力で「自分たちのケアのかたち」を作り上げています。

介護職の役割

地域包括ケアシステムの中で、介護の仕事をする人は、次のような役割を担っています。
・利用者の日常生活の支援を通じて、地域での暮らしを具体的に支える
・医療職や行政と連携し、チームケアの一員として働く
・地域住民やボランティアとも協力し、支援の輪を広げる

介護人材は、地域社会全体のケアをつなぐ・支える「キーパーソン」だといえます。

スライド１２

近年、科学技術は急速に進歩しており、その技術は介護の現場でも活用され始めています。テクノロジーの導入は、介護の利用者の生活をより豊かにしたり、介護をする人の負担を減らしたりする可能性を秘めており、これからの介護には欠かせない要素となると考えられます。

介護への応用が進む技術の例

介護の現場で活用が期待されているテクノロジーは多岐にわたります。

例えば、高齢者の動きを見守るセンサー、移動を助けるロボット、コミュニケーションを支援するツール、記録や情報共有を効率化するシステムなどがあります。

なぜテクノロジーの活用が必要なのか

高齢化が進み、介護が必要な方が増える一方で、介護をする人の数は不足しています。

テクノロジーを活用することで、人手不足を補ったり、介護の質を向上させたりすることが期待されています。また、高齢者の方の自立を支援し、より長く自宅で安心して生活できるようになる可能性も広がります。

介護職の役割

テクノロジーが進化しても、介護職の役割がなくなるわけではありません。むしろ、テクノロジーを使いこなして、より質の高いケアを提供することが求められます。

介護職は、「人と向き合う専門職」であることに変わりありません。

テクノロジーは、その専門性を活かすための“味方”です。

うまく活用することで、利用者の尊厳を守るケアがより実現しやすくなるのです。

スライド１３

日本の介護業界では、経済連携協定（EPA）に基づくルートや、在留資格「特定技能」などを活用して、外国籍の方が介護の仕事に就くための道が開かれています。介護人材には、国籍が異なる人とも協力して、チームとして質の高いケアを提供する姿勢や能力が求められます。

全ての介護職に求められること

外国人介護人材の受け入れが進む中で、国籍に関わらず、全ての介護職には以下の点が求められます。

・効果的なコミュニケーション: 日本語でのコミュニケーション能力はもちろん、相手の文化や背景を理解し、尊重しながら円滑なコミュニケーションを図ることが求められます。

・チームワーク: 多様な背景を持つ同僚と協力し、それぞれの専門性を活かしながら、チームとして質の高いケアを提供することが重要です。

・学び続ける姿勢: 日本の介護制度や技術は常に変化しています。国籍に関わらず、新しい知識やスキルを積極的に学び続ける姿勢が大切です。

スライド１３

介護現場では、人手不足だけでなく、働く人の「賃金が低い」「仕事がきつい」といった課題も続いています。こうした中で、国は介護職の処遇改善や職場環境の改善を支援する制度を整えています。より働きやすい介護の職場をつくることは、今後の人材確保にもつながります。

処遇改善加算制度

介護職の待遇（給料や働き方）をよくするために、国は「処遇改善加算」という制度をつくっています。この加算を受け取った介護事業所が、介護職員に手当や一時金を支給したり、研修や職場改善の取組に使うことを支援する制度です。

介護職として大切な視点

介護職は、制度に支えられるだけでなく、現場で改善を実践する担い手でもあります。

以下のような意識をもって働くことが大切です。

・「待遇改善は、利用者にとってもよいケアにつながる」

・「より良い職場を、自分たちでつくる意識をもとう」

スライド１６

介護福祉士とは、介護を必要とする人の生活を支え、身体介護や日常生活の支援を行う国家資格を持つ専門職です。

介護の現場では、専門性だけでなく、高い倫理観や責任感が求められます。

このような専門職としてのあり方を示すために、日本介護福祉士会という公益社団法人が、倫理基準（行動規範）を定めています。

行動規範の７つの柱は以下の通りです。

・利用者本位・自立支援

・専門的サービスの提供

・プライバシーの保護

・総合的サービスの提供と積極的な連携、協力

・利用者ニーズの代弁

・地域福祉の推進

・後継者の育成

スライド１７

介護福祉士は、利用者を一人の人間として尊重し、その人が自分らしく生きていけるように支援します。
すべての人に対して平等に接し、利用者の思いや希望を大切にする「利用者本位」の姿勢が基本です。
また、できることはできるだけ自分で行えるように支援する「自立支援」も、重要な役割のひとつです。

利用者本位・自立支援のポイントは以下の通りです。
・差別せず、尊厳を守る
→ 国籍・性別・年齢・障害などにかかわらず、一人ひとりを大切にする
・わかりやすく説明する
→ 利用者の理解力に合わせて、丁寧に情報提供し、選択をサポート
・自己決定を尊重する
→ 本人の意志や考えを第一に考え、無理に決めつけない
・根拠に基づく支援
→ 心と体の状態をよく理解し、その人に合った方法で介護する

スライド１８

介護福祉士は、ただ「お世話をする人」ではありません。
専門的な知識と技術をもとに、利用者一人ひとりの生活を支える「介護の専門職」です。
質の高い介護サービスを提供するためには、日々の実践を振り返りながら、常に学び続ける姿勢が大切です。

専門的サービス提供のポイントは、以下の通りです。
・専門職としての自覚を持つ
→ 利用者の生活に深く関わる責任ある仕事であることを意識する
・知識・技術の向上に努める
→ 変化する制度やニーズに対応するために、学び続ける
・利用者を“生活者”として理解する
→ 一人の人間として、その人の人生や思いを大切にする
・振り返りと改善を行う
→ より良い介護のために、日々のケアを見直す習慣を持つ
・提供した介護に責任を持つ
→ 成果や課題に正面から向き合い、責任ある行動をとる
・自身の健康管理を行う
→ プロとして安定したサービスを提供するために、心身の健康を保つ

スライド１９

介護福祉士は、利用者の生活に深く関わる仕事です。
だからこそ、個人情報やプライバシーを守ることはとても重要です。
利用者の信頼を得るためには、「話さない・見せない・漏らさない」という意識が必要です。

プライバシー保護のポイントは、以下の通りです。
・プライバシー権を尊重する
→ 利用者が「自分の情報は守られている」と感じられるよう配慮する
・情報の収集・使用には同意を得る
→ 介護計画や記録を取るときは、きちんと説明し、了解を得る
・秘密は絶対に守る（守秘義務）
→ 業務中だけでなく、退職後も個人情報は口外しない
・記録の管理・廃棄にも注意する
→ 書類やデータの取り扱いに十分気をつける

スライド２０

介護の現場では、介護福祉士だけでなく、看護師、医師、リハビリ職、ケアマネジャーなど、さまざまな職種と協力して支援を行います。
「一人ではなく、チームで支える」という考え方が大切です。
より良いケアを提供するためには、情報を共有し、お互いの専門性を活かし合うことが求められます。

連携・協力のポイントは、以下の通りです。
・介護福祉士や保健医療福祉関係者との協働
→ 利用者の生活を支えることに最善を尽くすことを共通の価値として、協働する
・他の専門職や機関との連携
→ 総合の創意工夫や努力によって、より質の高いサービスを提供できるようにする
・情報を共有する
→ 他職種との円滑な連携を図るため、情報を適切に共有する

スライド２１

介護福祉士は、利用者の代わりに気持ちや希望を“声”として届ける役割を持っています。
利用者が自分の意見を伝えることが難しいとき、その人の立場に立って行動することが大切です。
また、社会の不公平や制度の課題にも目を向け、よりよい環境づくりにも関わっていきます。

ニーズ代弁のポイントは、以下の通りです。

・利用者の権利を守り、ニーズを代弁する
　→ 利用者が必要とする福祉サービスを、適切に受けられるよう支援する
・社会に働きかける
　→ 不公平や問題がある場合には、他の専門職と連携し、社会に改善を求める

スライド２２

　介護福祉士は、利用者一人ひとりの生活を支えるだけでなく、地域全体の福祉力を高める役割も担っています。
　地域には、行政・施設・住民・ボランティアなど、さまざまな社会資源があります。
　それらを把握し、必要な支援につなげることで、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

地域福祉推進のポイントは、以下の通りです。
・社会資源の活用と開発に努める
　→ 利用者が多様な選択肢から支援を選べるように支える
・地域住民と協力し、福祉のまちづくりに参加する
　→ 福祉計画や制度の動きを理解し、地域とともに課題解決に取り組む
・地域の介護力を高める
　→ 家族や地域の人々とも連携し、介護の支え手を広げていく

スライド２３

　介護福祉士の専門性や経験は、次の世代へと受け継がれていくべき大切な財産です。
　より良い介護を未来へつなぐためには、後輩への指導や職場づくりにも積極的に関わる姿勢が求められます。
　「現場での学び」を共有し、信頼される先輩として行動することが、介護福祉の質を高めることにもつながります。

後継者育成のポイントは、以下の通りです。
・良き手本となり、誠実に人材を育てる
　→ 自らも学び続けながら、公正かつ誠実な態度で後輩を支える
・働きやすい職場づくりに取り組む
　→ マネジメント能力を活かし、チームの働きがいや雰囲気を大切にする

スライド２５

　介護人材には、専門的な知識や技術はもちろん、
　利用者やチームと信頼関係を築きながら、日々のケアを実践する力が求められます。

　こうした「実践的な力」のことを コンピテンシー と呼びます。
　本章では、介護職に必要なコンピテンシーを以下の２つの視点から学んでいきます。

A. 対人関係スキル・協働力
・コミュニケーション能力
・チームワーク、協働力
・多様性理解と信頼関係づくり

B. 専門職としての実践力・自己成長力
・状況判断力
・介護技術と体力
・学習力・成長力

スライド２７

　介護の現場では、利用者との信頼関係がケアの質を大きく左右します。
　一方的に話すのではなく、「相手の気持ちをくみとる姿勢」が大切です。
　家族に対しても、安心して介護を任せてもらえるよう、丁寧でわかりやすい説明が求められます。

ポイントは以下の３つです。
・傾聴（けいちょう）
　相手の話をさえぎらず、最後までしっかり聴く
　共感の言葉を添えることで安心感を与える
・わかりやすい説明
　難しい専門用語は使わず、相手に合わせた言葉を選ぶ
　表情や身ぶりも交えて、伝わるように工夫する
・非言語コミュニケーション
　やさしい表情、うなずき、声のトーンが安心につながる
　言葉だけでなく「態度」でも信頼感を伝える

補足として、
・「話す力」よりも「聴く力」が大切です。
・不安や戸惑いのある利用者・家族に寄り添う姿勢が信頼関係の第一歩です。

スライド２８

　介護はチームで行う仕事です。
　介護人材は、他の職員や看護師・リハビリ職などの専門職と連携しながら、利用者に最適なケアを提供

していきます。
　そのためには、正確に伝える力と、相手の意見を尊重する姿勢の両方が求められます。

ポイントは以下の３つです。
・報告・連絡・相談（報連相）
　情報はタイミングよく、正確に共有する
　小さな変化でも気づいたらすぐに伝えることが大切
・相互理解と連携
　相手の専門性や立場を尊重して話し合う
　「伝える」だけでなく「聴く姿勢」も連携のカギ
・記録や申し送りの工夫
　事実と主観を分けて記録する
　誤解を生まないよう、簡潔かつ具体的に伝える

補足として、
・チーム内でのズレや伝達ミスは、利用者の安全に直結します。
・「伝わったかどうか」を意識して、確認する姿勢も大切です。

スライド２９

　介護の現場では、一人で全てのケアを行うことはできません。
　介護職同士はもちろん、看護師・リハビリ職・栄養士・家族など、さまざまな人と協力しながらケアを進める必要があります。
　そのためには、お互いを尊重し、情報を共有しながら、一つのチームとして動く力が求められます。

ポイントは以下の３つです。
・役割の理解と尊重
　自分と他職種の役割を理解し、無理な介入はしない
　相手の立場や意見を大切にする
・情報共有と協力
　利用者の状態や対応内容を共有して連携する
　お互いに助け合いながら業務を進める姿勢が大切
・良好な人間関係づくり
　挨拶や声かけ、感謝の言葉を大切にする
　日頃の関係性が、いざという時のチーム力につながる

補足として、
・チームケアは「一人でがんばる」よりも「みんなで支える」考え方です。

・良い人間関係が、利用者へのより良い支援につながります。

スライド３０

　介護の現場では、利用者だけでなく、共に働く職員の間にも多様性があります。
　年齢、性別、国籍、文化、宗教、価値観など、背景の異なる人たちと関わる中で、一人ひとりを尊重し、理解しようとする姿勢が大切です。
　こうした姿勢が、利用者との信頼関係、そして職場内の良好な関係づくりにつながります。

ポイントは以下の３つです。
・相手の背景や価値観を尊重する
　国籍、文化、宗教、生活習慣のちがいを否定せず、まずは知る・理解する
　「こうあるべき」と決めつけない態度が信頼を生む
・利用者にも職員にも多様性があることを認識
　利用者の生き方や考え方の違いに寄り添う
　外国人職員・年齢差のある職員と円滑に協働するための気づかい
・違いを認め合い、安心できる関係をつくる
　言葉の壁がある相手にも、表情や態度で信頼を示す
　日常の声かけや丁寧な関わりが、安心感と絆を育てる

補足として、
・多様性を「受け入れる」のではなく、「当たり前」として関わる意識が必要です。
・利用者にも、仲間にも、信頼は「理解しようとする姿勢」から生まれます。

スライド３２

　介護の現場では、利用者の状態は日々変化し、時には予期せぬ出来事が起こることもあります。
　そうしたときに必要なのが、「今、何が起きているのか」「どう対応すべきか」を判断する力です。
　正しく判断することで、利用者の安全を守り、事故やトラブルを未然に防ぐことができます。

ポイントは以下の３つです。
・利用者の変化に気づく力
　顔色、動作、表情、言葉づかいの「いつもとの違い」を見逃さない
　小さな変化にも敏感に対応する姿勢が大切
・緊急時の判断と初期対応
　転倒・体調不良など、急な出来事にも冷静に対応
　状況を整理し、すぐに報告・連絡・応援を求める
・優先順位を考える力

いくつかの状況が同時に発生したとき、何を優先すべきかを判断
自分ひとりで抱え込まず、周囲と連携して対応する

補足として、
・判断に迷ったら、「安全・安心を最優先」に考えましょう。
・経験を重ねることで、判断力は少しずつ育っていきます。

スライド３３

介護の仕事では、移乗や入浴、排泄などの身体介護を行う機会が多くあります。
そのため、正しい介護技術を身につけ、安全に実践することが必要です。
また、長時間の立ち仕事や夜勤など、身体的な負担も大きいため、基礎的な体力や体調管理も重要になります。

ポイントは以下の３つです。
・正しい介護技術の習得
移乗介助、食事介助、入浴・排泄介助などの基礎スキル
利用者の安全と自分の身体を守るための知識と技術
・ボディメカニクスの活用
身体に負担をかけずに動くための姿勢・動作の工夫
腰痛などの職業病を防ぐためにも重要
・体力・体調管理
長時間の立ち仕事や夜勤への備え
自分自身の健康状態を保つことも「ケアの質」の一部

補足として、
・「体力がある＝強い」ではなく、「疲れにくい身体づくり」がポイント。
・技術と体力の両方があってこそ、安全で安心な介護ができます。

スライド３４

介護の仕事は、一度技術や知識を身につけたら終わりではありません。利用者の状態の変化、医療や介護技術の進歩、関連する制度の改正など、新しい情報やスキルが求められます。そのため、学び続け、自分自身を成長させようとする意欲が、質の高いケアを提供し続ける上で不可欠となります。

ポイントは以下の３つです。
・新しい知識・技術の習得
認知症ケア、看取りケア、医療的ケア、新しい介護機器の操作方法など専門性を高めるための学習意欲

最新の介護保険制度やガイドラインの理解
研修会や勉強会への積極的な参加
・経験からの学びと改善
日々のケア実践を客観的に振り返り、より良い方法やアプローチを考える力
成功体験だけでなく、うまくいかなかったことやヒヤリハットからも原因を分析し、次に活かす姿勢
他のスタッフの優れた点や工夫を観察し、自分のケアに取り入れる柔軟性
・向上心と自己研鑽
介護福祉士などの資格取得や、より専門的なスキルアップを目指す意欲
上司や同僚からのアドバイスやフィードバックを素直に受け止め自身の成長につなげようとする態度
自身のキャリアプランを考え、目標を持って業務に取り組む姿勢

補足として、
・「学習力・成長力」は、単に知識を詰め込むことではありません。現場での経験を通じて得た気づきを大切にし、それを次のケアに活かしていくプロセスそのものが重要です。
・変化を恐れず、常に向上心を持って取り組む姿勢が、あなた自身と利用者の双方にとって、より良い未来につながります。

スライド３６

キャリアパスとは、介護職員が経歴を積み上げるために必要な「仕事の成長の道すじ」のことです。私たちがどのように経験や資格を積み、ステップアップしていくかを考えるための道しるべになります。

背景
これまでの介護の現場では、働く人がどのように成長していけるのかが、はっきりと見えにくいという課題がありました。
たとえば…
・「何をがんばれば評価されるのか、よく分からない」
・「キャリアアップの方法やステップが示されていない」
こうした状況では、やる気が続かなかったり、不安を感じて仕事をやめてしまう人もいました。
また、介護業界は人手不足が続いており、働く人が安心して長く続けられるしくみを整えることが大きな課題になっていました。
こうした背景から、最近では、職員一人ひとりが成長を実感できる「キャリアパス」の導入が進んでいます。

メリット
職員にとっては、
・自分の「できること」や「これから学ぶこと」が分かりやすくなる
・努力やスキルが評価されやすくなり、モチベーションが上がる

・転職や昇進などのときに、自分の成長を証明しやすい
といったメリットがあります。

施設・事業所にとっては、
・忙しい中でも職員を正しく評価できる
・スキルアップによってサービスの質が向上する
・やる気のある職員が定着しやすくなり、人材育成にもつながる
といったメリットがあります。

注意点として、
・キャリアパスはすべての事業所で同じというわけではありません。
・施設の規模や方針、求める人材像に合わせて、独自のキャリアパスを作っている場合もあります。

スライド３７

介護の仕事は、学びと経験を重ねながら、成長を実感できる職業です。将来は、専門性をさらに深めたり、マネジメント職を目指したりすることができます。

キャリアパスの例
まずは２年間、専門学校で学びます。
この間に、介護に必要な知識や技術を習得し、現場実習を通して実際の介護現場を体験します。
卒業のタイミングや卒業後に、国家資格である介護福祉士を取得します。
卒業後は介護施設等に就職し、１年目から現場での実践を積み始めます。
先輩やチームの支えを受けながら、利用者との関わりや介護の流れに慣れていきます。
2〜3 年目には、日々の業務を一通りこなせるようになり、後輩のサポートやチーム内の大事な役割を担う場面も増えていきます。
基本的な介護の力だけでなく、周囲と協力しながら働く力が求められるようになります。
4〜5 年目以降になると、ユニットリーダーやサービス提供責任者など、リーダー的な立場を任される機会が出てきます。
職場によっては、職員教育や業務調整などにも関わるようになり、責任とやりがいのある仕事が広がっていきます。
さらに経験を積んだあとは、自分の興味や得意分野に応じて、さまざまなキャリアの可能性があります。
認知症ケアやリハビリ介護などの専門分野に進んで「認定介護福祉士」を目指す人、職場の運営に関わる「主任」や「施設長」などのマネジメント職に進む人、または介護サービスの計画を作成する「ケアマネジャー（介護支援専門員）」として活躍する人もいます。

スライド３８

介護福祉士とは、介護の専門職として国家資格を有し、高齢者や障害をもつ方の身体的・精神的なケアを総合的に担うプロフェッショナルを指します。高齢化社会の進行とともにその需要は高まっています。
資格取得のためには、指定の養成校で学ぶか一定の実務経験を積んだうえで、国家試験に合格する必要があります。身体介護技術はもちろん、コミュニケーション技術や倫理観、利用者の自立を支援するための知識など、多岐にわたる能力が求められます。
具体的な業務内容としては、食事・排泄・入浴介助といった直接的な身体ケアに加え、ケアプランの策定や他職種・他機関との連携、利用者や家族との相談・調整などが挙げられます。
また、認知症をはじめとするさまざまな症状に対応する専門性や、多様化する家族形態・生活環境に応じた柔軟なサポート力も重要な要素です。
介護福祉士は、特別養護老人ホームやデイサービス、グループホーム、在宅ケアなど、さまざまな現場で活躍し、高齢化社会の進行とともにその需要はますます高まっています。
利用者の生活の質を高め、地域社会の福祉水準を向上させるキーパーソンとして、今後も重要な役割を担い続けるでしょう。

スライド４０

キャリアプランとは、将来の自分の姿を思い描きながら、「いつ・何を・どうするか」を考える計画のことです。介護の仕事を続けながら、どのように成長していきたいかを自分で考えることを指します。

キャリアパスとのちがい
キャリアパスは、業界全体に共通する「成長の道すじ」でした。
それに対してキャリアプランは、自分自身が選ぶ・立てる計画です。
つまり、キャリアパスが「地図」なら、キャリアプランは「自分の旅の予定表」です。

どうして必要なの？
介護の仕事は、日々の業務に追われやすく、先のことを考える余裕がなくなりがちです。
だからこそ、自分の中に「こんな介護職になりたい」「〇年後に〇〇の資格をとる」といった目標や計画があることが、モチベーションや自信につながります。

ポイントは「自分に合った計画」
キャリアプランに「正解」はありません。
大切なのは、自分の性格や強み、生活のペースに合わせて、無理なく実行できる計画を立てることです。

スライド４１

キャリアプランは、「いつ・何をするか」を時間の流れにそって考えると立てやすくなります。

例えば、
・卒業後１年以内に、介護福祉士の試験に合格する
・就職後３年以内に、チームリーダーになって後輩育成に力を入れる
・就職後７年以内に、認定介護福祉士の資格を取得。介護のプロフェッショナルとして専門性をさらにみがく
といったプランを立てることができます。

補足として、２つの内容をお伝えします。
・小さな目標も大切
「2 年後に資格を取る」といった大きな目標だけでなく、
「週に１回は先輩に相談する」
「苦手な記録業務を練習する」
といった小さな行動目標を決めておくのもおすすめです。日々の努力が、将来の自信につながります。

・計画は“変えてもいい”
キャリアプランは、一度決めたら絶対にその通りにしなければならないものではありません。
体調や生活の変化、仕事の経験によって、目標が変わることもあります。
そのときは、また新しい計画を立て直せばOKです。

スライド４３

キャリアビジョンとは、「将来こうなりたい」と思う自分の理想の姿です。どんな介護職になりたいか、どんな働き方をしたいかを思い描くことで、自分の目指す方向が見えてきます。

・キャリアプランとのちがい
キャリアプランは「計画」＝目標やステップを具体的に考えるもの。
一方、キャリアビジョンは「将来こうありたい」という理想のイメージです。
たとえば…
・「認知症ケアの専門家として活躍したい」
・「外国人職員のよき相談相手になりたい」
・「家庭と仕事を両立しながら、長く介護の現場で働きたい」
このように、キャリアビジョンには、仕事の内容だけでなく、働き方や生き方も含まれます。

・なぜキャリアビジョンが大切？
・自分の価値観や思いを大事にしながら、仕事を続けるため
・仕事に迷ったときに、自分の「原点」に戻るため
・プランを立てるときの“ゴール”として、方向を示してくれるから

キャリアビジョンがあることで、「何のために働くのか」がはっきりし、日々の仕事へのやりがいや意味も感じやすくなります。

「どんな介護職になりたいか？」
「どんなふうに人の役に立ちたいか？」
自分自身に問いかけながら、“なりたい未来の自分”を少しずつ思い描いていきましょう。

スライド４４

キャリアビジョンは、「なりたい自分」を見つけるところから始まります。自分の気持ちや、学びの中で感じたことをもとに、少し先の未来をイメージしてみましょう。

・自分に問いかけてみましょう
キャリアビジョンを考えるときは、「どんなふうに働きたいか」という気持ちがヒントになります。
以下のような質問を、自分にしてみてください。
・介護について学んで、心に残ったことは何ですか？
・実習やボランティアで、うれしかったこと・印象に残った場面はありますか？
・将来、どんな人の力になりたいですか？
・自分の得意なことや、好きなことはどんなことですか？
・「こんな介護職になりたいな」と思う先輩や先生はいますか？

・ビジョンにかたちはなくていい
キャリアビジョンは、「資格」や「肩書き」ではなくても大丈夫です。
たとえば、こんなふうな思いでも立派なビジョンです：
・「相手の話をよく聴ける介護職になりたい」
・「言葉が通じなくても、笑顔で安心してもらえるような人になりたい」

・少しずつ考えていけばOK
まだはっきりしていなくても大丈夫です。
授業や実習、周りの人との関わりの中で、「自分はこうなりたいかも」と思う気持ちを、少しずつ見つけていきましょう。

9. 『AI 活用開発プロジェクト』教材

『AI活用開発プロジェクト』
第1回講義資料

202X.XX.XX

目次(もくじ)

1 講義(こうぎ)ガイダンス

2 今日(きょう)のゴールと内容(ないよう)

3 グループワークで作成(さくせい)するもの

4 まとめと2日目(ふつかめ)について

目次(もくじ)

1 講義(こうぎ)ガイダンス

2 今日(きょう)のゴールと内容(ないよう)

3 グループワークで作成(さくせい)するもの

4 まとめと2日目(ふつかめ)について

講義(こうぎ)の最終目標(さいしゅうもくひょう)

グループワークをしながらアプリを形(かたち)にしていく流(なが)れを学(まな)ぶ

話(はな)し合(あ)い	グループワークで話(はな)し合(あ)いを行う
整理(せいり)	話(はな)し合(あ)った内容(ないよう)を整理(せいり)する
形(かたち)にする	整理(せいり)した内容(ないよう)が伝(つた)わる資料(しりょう)を作成(さくせい)する







3日間(みっかかん)で作(つく)るもの

2日目(ふつかめ)までは1つずつ資料(しりょう)を作成(さくせい)

最終日(さいしゅうび)にはアプリのプロトタイプを作成(さくせい)

1日目(いちにちめ)	要件定義書(ようけんていぎしょ)
2日目(ふつかめ)	企画提案書(きかくていあんしょ)
3日目(みっかめ)	アプリのプロトタイプ

今(いま)はイメージが湧(わ)かなくても大丈夫(だいじょうぶ)！

毎回作(まいかいつく)り方(かた)を丁寧(ていねい)に説明(せつめい)してから作成(さくせい)してもらいます

目次(もくじ)

1 講義(こうぎ)ガイダンス

2 今日(きょう)のゴールと内容(ないよう)

3 グループワークで作成(さくせい)するもの

4 まとめと2日目(ふつかめ)について

1日目(いちにちめ)のゴール

SWOT分析(ぶんせき)の意味(いみ)、やり方(かた)を理解(りかい)し、要件定義書(ようけんていぎしょ)を作成(さくせい)。



SWOT分析(ぶんせき)の説明(せつめい)ができる

実際(じっさい)にSWOT分析(ぶんせき)を行(おこな)える

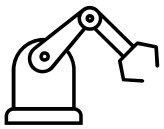
要件定義書(ようけんていぎしょ)・議事録(ぎじろく)の説明(せつめい)ができる

グループで役割分担(やくわりぶんたん)をしながら要件定義書(ようけんていぎしょ)が書ける

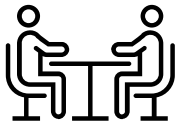
翻訳(ほんやく)アプリについて

今回作成(こんかいさくせい)する翻訳(ほんやく)アプリは、日常会話(にちじょうかいわ)で使(つか)えるようなイメージ

みんなで理想(りそう)の翻訳(ほんやく)アプリについて話(はな)し合(あ)ってみよう！



翻訳(ほんやく)する以外(いがい)で欲(ほ)しい機能(きのう)は？



どんな場面(ばめん)で使(つか)いたい？



普段(ふだん)の生活(せいかつ)で困(こま)ったことを話(はな)そう！

ビジネス分析を行う理由：分析なしの場合

分析なしの場合、あとから問題点に気づいたり、
満足できないものができあがる

ビジネス分析なしの場合



作業はすぐに
始められるが…



・何のためのアプリかわからなくなる
・作ってから「やっぱり違う」となる
・だめな点に作ってから気づく

9

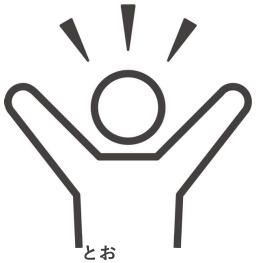
ビジネス分析を行う理由：分析ありの場合

実際に作る前に、何を作るか考えるのはとても大切

ビジネス分析ありの場合



事前に欲しい機能や
考えられる問題点について
チームで共有を行う



・イメージした通りのものができる
・後からやり直しにならない
・チームの中で同じイメージを持てる

10

SWOT分析とは

アイデアを4つに分けて考えることで、わかりやすく整理する方法

チームのアイデアを
4つにわけて整理する



SWOT
分析

強み
(Strength)



弱み
(Weakness)



機会
(Opportunity)



脅威
(Threat)



これにより強みやチャンスを活かせる！

11

SWOT分析の行い方

4つの記入欄を用意してそこにアイデアを書いていく

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み(Strength)はここに記載 活かせる強みは？	弱み(Weakness)はここに記載 克服するべき弱みは？
外部環境	機会(Opportunity)はここに記載 市場での機会はある？	脅威(Threat)はここに記載 回避すべき脅威は？

12

SWOT分析(ぶんせき)の行(おこな)い方(かた)：具体例(ぐたいれい)

アルバイト中使える翻訳アプリを作るとしたら

- アルバイトで使う言葉に特化
- トラブルを減らせる
- 実際の困りごとに合っている
- 業種ごとに言葉が違う
- 登録する言葉が多くなる
- 全ての職場に対応できない
- 留学生のアルバイト人口が多い
- 接客での言葉の問題が多い
- 店側も困っている
- 店側も困っている
- 既存の翻訳アプリで問題ない
- 職場によって必要性が低い

今回(こんかい)のSWOT分析(ぶんせき)の具体的(ぐたいてき)な流(なが)れ

グループでSWOT分析をやってみよう

1. 自分たちのアプリがいつ使えるものにするか考える
2. 思いついたアイデアをどんどん話す
3. 強み・弱み・機会・脅威のどれに当てはまるか考える
4. 分析結果を踏まえてアプリを作るときに何を大切にするか考える

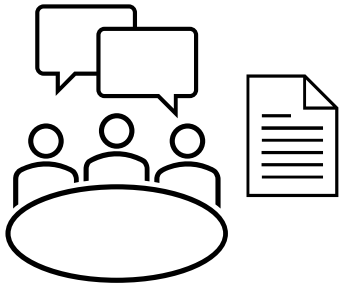
既存のアプリを参考にしてもOK！

正解はないので恐れず話してみよう！

間違っていても大丈夫！必ずメモしよう！

議事録(ぎじろく)とはなにか

話し合った内容を後で見返すためのメモ



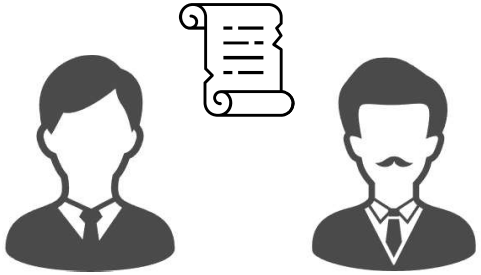
グループワークで
何を話したかをメモしよう

メモを取る内容は話し合いの結果
決まったこと

自分たちが見返すものなので、
きれいな文章じゃなくてもOK

要件定義書(ようけんていぎしょ)とはなにか

作るアプリの内容をまとめた説明書



要件定義書＝アプリの説明書

チームのみんなで作るもの
実務では**他の人にも見せる**

次の講義でも使うものなので、
議事録と一緒に完成させよう！

目次(もくじ)

1 講義ガイダンス

2 今日のゴールと内容

3 グループワークで作成するもの

4 まとめと2日目について

17

グループワークの進め方(すすめかた)のアドバイス

チームみんなが話しやすい環境を一緒に作ろう

リーダーが司会、書記の担当を決めよう！

全員がアイデアを出せるように頑張ろう！

人のアイデアを否定するのは×！



18

SWOT分析用(ぶんせきよう)シート

SWOT分析で出たアイデアをまとめてください　これを提出！

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み(Strength)はここに記載	弱み(Weakness)はここに記載
外部環境	機会(Opportunity)はここに記載	脅威(Threat)はここに記載

19

記入用(きにゅうよう)議事録(ぎじろく)シート

話し合いの結果決まったことをここにメモする　これを提出！

20

記入用(きにゅうよう)要件定義書(ようけんていぎしょ)シート

話し合って要件定義書の項目を全て記入しよう　これを提出！

アプリ名	
作成日	
チーム メンバー	
アプリの目的	
使う人	
アプリで できること	

本日(ほんじつ)提出(ていしゅつ)するもの

これを提出！と青い文字で書いてあるシートを提出

- SWOT分析結果
- 議事録
- 要件定義書

次の講義で使うものもあるので、しっかり全て完成させよう！

目次(もくじ)

1 講義ガイダンス

2 今日のゴールと内容

3 グループワークで作成するもの

4 まとめと2日目について

2日目(ふつかめ)の講義(こうぎ)の予告(よこく)

要件定義書を基に企画提案書を作成

講師やクラスのみんなからアドバイスを貰い改良







- 要件定義書
- 企画提案書
- アドバイスを貰い改良！

1日目(いちにちめ)のまとめ

今日の内容(きょうのないよう)はここを読(よ)んで思(おも)い出(だ)そう！

SWOT分析(ぶんせき)について

SWOT分析(ぶんせき)は強(つよ)み・弱(よわ)み・機会(きかい)・脅威(きょうい)の
4つの考(かんが)え方(かた)にチームのアイデアを分(わ)ける分析方法(ぶんせきほうほう)です。
これによってチームで作(つく)るもののイメージをより明確(めいかく)にした状態(じょうたい)で
開発(かいはつ)に臨(のぞ)めます。

議事録(ぎじろく)について

チームで話(はな)し合(あ)いをした結果(けっか)、決(き)まったことをメモしておく資料(しりょう)です。
話(はな)し合(あ)った内容(ないよう)を後(あと)で見返(みかえ)すために使用(しよう)します。

要件定義書(ようけんていぎしょ)について

これから作(つく)るものについて詳(くわ)しく内容(ないよう)が書(か)かれた、
アプリやシステムの説明書(せつめいしょ)です。
これから開発(かいはつ)するものの具体的(ぐたいてき)な機能(きのう)などを
明確(めいかく)にするために使用(しよう)します。

『AI活用開発プロジェクト』
第2回講義資料

202X.XX.XX

目次(もくじ)

1 今日(きょう)のゴールと先週(せんしゅう)の振(ふ)り返(かえ)り

2 企画提案書(きかくていあんしょ)の作(つく)り方(かた)

3 フィードバック反映(はんえい)までの流(なが)れ

4 まとめと3日目(みっかめ)について

目次(もくじ)

1 今日(きょう)のゴールと先週(せんしゅう)の振(ふ)り返(かえ)り

2 企画提案書(きかくていあんしょ)の作(つく)り方(かた)

3 フィードバック反映(はんえい)までの流(なが)れ

4 まとめと3日目(みっかめ)について

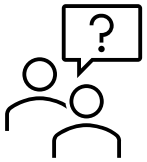
1日目(いちにちめ)の振(ふ)り返(かえ)り

先週作ったものの再確認

先週行った内容を思い出そう！



翻訳アプリに関するアイデアの共有



SWOT分析を実施



分析結果を基に要件定義書を作成

2日目(ふつかめ)のスケジュール

10分	講義目標の説明
40分	企画提案書の書き方の説明
80分	企画提案書の作成
50分	企画提案書のフィードバックを行い、反映

グループワーク

2日目(ふつかめ)のゴール

企画提案書を作成し、フィードバックを受けて改善



企画提案書の説明ができる

要件定義書から企画提案書を作成できる

フィードバックを受けた内容を記録できる

フィードバックを企画提案書に反映できる

目次(もくじ)

1 今日のゴールと先週の振り返り

2 企画提案書の作り方

3 フィードバック反映までの流れ

4 まとめと3日目について

企画提案書(きかくていあんしょ)とはなにか

アプリのアイデアを人に説明するための資料



プレゼン形式でアプリの内容を
人に伝える際に使われる資料



プレゼンの後に内容を確認したり、
会議に参加しなかった人が
読むこともある

「見せても・読んでも分かる」ことが大事！

企画提案書(きかくていあんしょ)で伝(つた)えること

この企画で何をしたいのかを説明



身の回りにどんな困りごとがあるのか



どうやってこの企画で問題を解決するのか



この企画ならではの強み・メリットを紹介

企画提案書(きかくていあんしょ)のイメージ①

このフォーマットで企画提案書を作成

アプリ名	

解決したい問題	想定する使う人・場面

企画提案書(きかくていあんしょ)のイメージ②

このフォーマットで企画提案書を作成

アプリでできること	アプリの強み・工夫した点

企画提案書(きかくていあんしょ)の記入例(きにゅうれい) ①

この例を参考に企画提案書を作りましょう

アプリ名	らくらく英日翻訳

解決したい問題

日本に来たばかりの留学生が、学校や生活の中で日本語が分からず、会話が止まってしまうことを解決したい。
・日本語が早くて聞き取れない
・聞き取れなかった時どう英語で聞き返せばいいか分からない
ことが原因として考えられる。
自分たちが日本に来た時、同じことで困った経験があったため、解決したいと考えた。

想定する使う人・場面

日本に来たばかりの留学生や、
日本語での日常会話にまだ不安がある人が、
学校で先生やクラスメイトと話すときや
お店やアルバイトで日本語が分からないときに、
相手の言っている日本語の意味をすぐに知りたかったり、自分の言いたいことを英語で考えて、日本語にして伝えたい
ためにアプリを使うことを想定する。

企画提案書(きかくていあんしょ)の記入例(きにゅうれい) ②

この例を参考に企画提案書を作りましょう

アプリでできること

英語を日本語に、日本語を英語に翻訳することができる。
それぞれの言語を入力欄に記入すると、翻訳された言語が出力される。
これらにより、日本語がわからず相手の言うことが理解できなかったり、伝えたいことを日本語でどのように伝えるかがわからない問題が解消する。
また、短い文書に特化した翻訳機能にすることで、出力結果が長くなりすぎて、使いにくくなる問題を未然に防ぐ。

アプリの強み・工夫した点

1つ目の強みは、短い会話に特化している点です。
あいさつや質問など、よく使う文を中心に翻訳するよう機能を絞ることで、すぐに翻訳結果が得られます。
留学生は、長い文章よりも会話で困ることが多く、すぐに翻訳結果が欲しい場面が多いため強みだと考えていて、日本語に自信がない留学生にとっては嬉しい機能だと考えます。
2つ目の強みは、英語と日本語のみに特化している点です。
対応言語を絞ることにより、アプリの操作が簡単になる点が強みで、機械の操作が苦手な人に嬉しい機能だと考えます。

各項目(かくこうもく)の書(か)き方(かた) ①

要件定義書の内容を参考に記入

解決したい問題

要件定義書の「アプリの目的」を参考にして、
・問題が起こっている原因
・なぜ解決したいと思ったのか
も併せて記入

想定する使う人・場面

要件定義書の「使う人」を参考にして、
・どんな場面で使うのか
・アプリで何がしたいと考えている人なのか
も併せて記入

各項目(かくこうもく)の書(か)き方(かた) ②

要件定義書の内容を参考に記入

アプリでできること

要件定義書の「アプリでできること」を参考にして、
・それぞれの機能がどんな問題を解決するか
・その機能はなぜ必要なのか
も併せて記入

アプリの強み 工夫した点

ここが1番大切！みんなで協力して考えよう！
・他の翻訳アプリと何が違うのか
・この工夫で嬉しくなるのはだれか
も併せて記入

グループワークの進め方(すすめかた)のアドバイス

役割分担を決めつつ、困ったらみんなで相談

各項目の役割分担を決めよう！	難しいと感じたら積極的に相談しよう！	残り時間を意識して、時間内に完成させよう！



目次(もくじ)

1 今日のゴールと先週の振り返り

2 企画提案書の作り方

3 フィードバック反映までの流れ

4 まとめと3日目について

フィードバックの話し方(はなしかた)・受け方(うけかた)

フィードバックをお互いにし合って、企画提案書を改善







否定的な意見は厳禁	意見を伝える時は、良くするために話す	意見を言われた時はメモを取ろう！

フィードバックの修正方法(しゅうせいほうほう)

もらったフィードバックの中から重要だと思うもののみ改善



全てのフィードバックを直す必要はなし！

グループの中でそのフィードバックを反映するか

話し合ってから作業を開始





フィードバックを反映して改善！

本日(ほんじつ)提出(ていしゅつ)するもの

フィードバックの内容(ないよう)を反映(はんえい)した企画提案書(きかくていあんしょ)

修正後(しゅうせいご)の企画提案書(きかくていあんしょ)

次(つぎ)の講義(こうぎ)で使(つか)うものなので、しっかり修正(しゅうせい)してから提出(ていしゅつ)しよう！

目次(もくじ)

1 今日(きょう)のゴールと先週(せんしゅう)の振(ふ)り返(かえ)り

2 企画提案書(きかくていあんしょ)の作(つく)り方(かた)

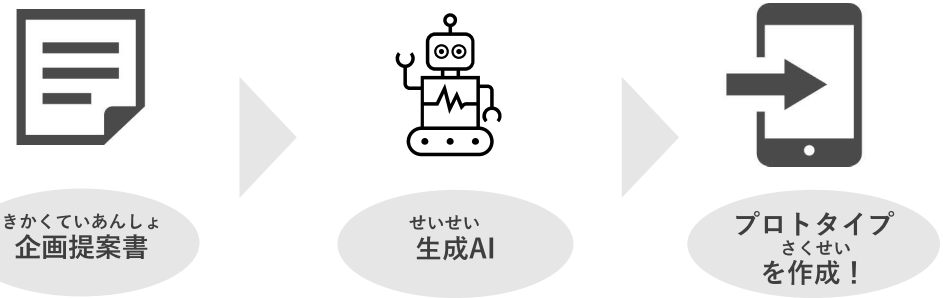
3 フィードバック反映(はんえい)までの流(なが)れ

4 まとめと3日目(みっかめ)について

3日目(みっかめ)の講義(こうぎ)の予告(よこく)

企画提案書(きかくていあんしょ)を基(もと)に生成AI(せいせい)を使ってプロトタイプを作成(さくせい)

2人1組(ふたりひとくみ)で1つのプロトタイプを完成(かんせい)させる



2日目(ふつかめ)のまとめ

今日(きょう)の内容(ないよう)はここを読(よ)んで思(おも)い出(だ)そう！

企画提案書(きかくていあんしょ)について

企画提案書(きかくていあんしょ)は、自分(じぶん)たちのアイデアを
人(ひと)に伝(つた)えるための資料(しりょう)です。
発表(はっぴょう)でも使(つか)われ、あとから読(よ)まれることもあります。

フィードバックのやり方(かた)・受(う)け方(かた)

フィードバックは、企画(きかく)をよくするための意見(いけん)です。
質問(しつもん)や意見(いけん)は、メモを取(と)りながら聞(き)きましょう。

フィードバックの反映方法(はんえいほうほう)

もらった意見(いけん)は、すべて直(なお)す必要(ひつよう)はありません。
「大事(だいじ)な意見(いけん)」「今(いま)の企画(きかく)に合(あ)っている意見(いけん)」を
チームで話(はな)し合(あ)って決(き)めます。

『AI活用開発プロジェクト』
第3回講義資料

202X.XX.XX

目次(もくじ)

1 今日のゴールと先週の振り返り

2 生成AIの基礎的な知識

3 GitHub Copilotを使ったプロトタイプの作成

4 まとめ

目次(もくじ)

1 今日のゴールと先週の振り返り

2 生成AIの基礎的な知識

3 GitHub Copilotを使ったプロトタイプの作成

4 まとめ

2日目(ふつかめ)の振(ふ)り返(かえ)り

先週作ったものの再確認

先週行った内容を思い出そう！







要件定義書を基に企画提案書を作成

企画提案書のフィードバックを受ける

フィードバックを基に企画提案書を改善

3日目のゴール

企画提案書を基に、生成AIを用いてアプリのプロトタイプを作成

- 生成AIの基礎的な知識を身に付ける
- 開発で生成AIを活用する方法を理解する
- 企画提案書を基に開発を行う流れを理解する
- 生成AIを用いてプロトタイプを作成する

3日目のスケジュール

10分	講義目標の説明
60分	生成AIの使い方・プロトタイプの作り方の説明
90分	**プロトタイプの作成**
20分	提出用シートの作成・3日間のまとめ

目次(もくじ)

1 今日のゴールと先週の振り返り

2 生成AIの基礎的な知識

3 GitHub Copilotを使ったプロトタイプの作成

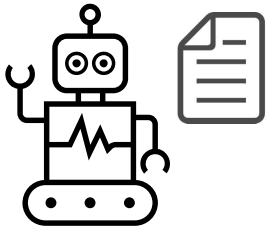
4 まとめ

生成AIとは

文章やコードを代わりに作ってくれるパートナー



3時間かかる…

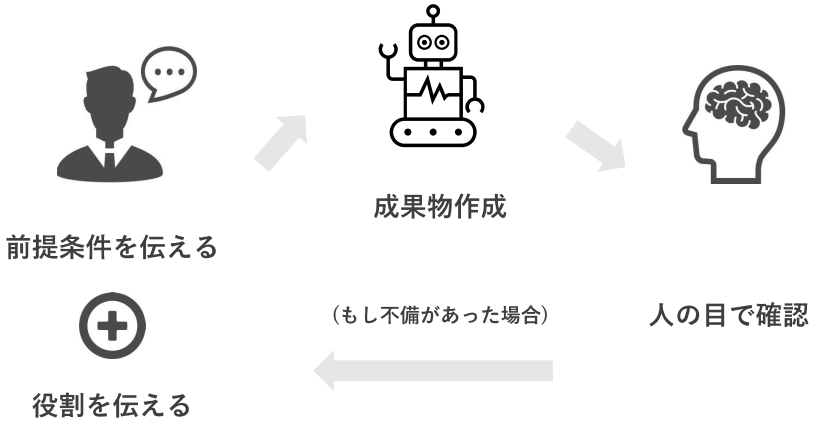


30分で作成！

正しく使えば、勉強も仕事も効率アップ

生成AIを用いるときの流れ

指示文(プロンプト)を入力するだけで欲しいものをいつでも作成



生成AIのメリットとその具体例

単純作業の効率化からアイデア出しの手伝いまで幅広く対応可能

メリット	具体例
作業の効率化	レポートの下書き・要約
新しいアイデアの発想	レポートに書く内容のアイデア出し
苦手をサポート	文章添削や誤字の確認

生成AIの注意点とその具体例

プロンプトの内容に気を付けつつ、考えることをAI任せにしない

デメリット	対策
情報が間違っていることがある	人間が内容を確認する
個人情報を入力すると危険	入力する内容に注意する
依存すると考える力が弱まる	自分の能力も鍛える

目次(もくじ)

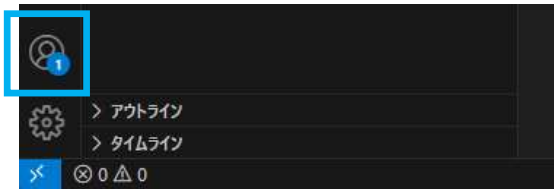
1 今日のゴールと先週の振り返り
2 生成AIの基礎的な知識
3 GitHub Copilotを使ったプロトタイプの作成
4 まとめ

GitHub Copilotの導入-1

まずはGitHub CopilotをVSCで無料で使えるようにする

1.GitHubアカウントを作成する。https://github.com/

2. VSCを開き、左下のアイコンをクリック。



3.「バックアップと同期の設定」>画面上部のサインインをクリック。
ブラウザからサインインを行う。

GitHub Copilotの導入-2

4.拡張機能の検索欄を開き、「Github」で検索をする。

5.「GitHub Copilot」の「インストール」をクリック。



6.導入完了！VSC左上の表示タブにある「チャット」から
チャットが開けることを確認。

本日使う生成AIの紹介

GitHub Copilotの機能を使い、1時間でプロトタイプを作成

GitHub Copilot

特徴

総合的にプログラミングを助けてくれる生成AI
コードを書く際のサポートをしてくれる
プロンプトを入力することでコードのひな形を作成

本日使うGitHub Copilotの機能の紹介

チャット機能を使い、ひな形を作ってもらった後にコード補完で修正

チャット機能
(Agent)で
ひな形を作成

ひな形を
自分で確認

コード補完機能を
使いながら
内容を修正

コード補完機能の紹介

「思考を補助する相棒」として活用

途中まで書いたコード

```python
# FizzBuzzを実装
def fizzbuzz(n):
    for i in range(1, n+1):
        if i % 3 == 0 and i % 5 == 0:
            # ここで止めると…
```

補完機能を使ったコード

```python
# FizzBuzzを実装
def fizzbuzz(n):
    for i in range(1, n+1):
        if i % 3 == 0 and i % 5 == 0:
            print("FizzBuzz")
        elif i % 3 == 0:
            print("Fizz")
        elif i % 5 == 0:
            print("Buzz")
        else:
            print(i)
# 1から100までのFizzBuzzを表示
fizzbuzz(100)
```

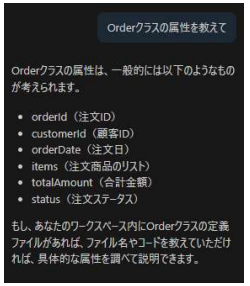

コンテキストの追加方法

必要な情報を与えるほど精度が向上

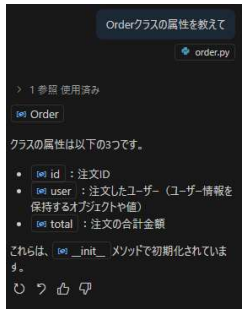
Orderクラスを作成

```python
# models/order.py
class Order:
    def __init__(self, id, user, total):
        self.id = id
        self.user = user
        self.total = total
```

コンテキストなし



コンテキストあり



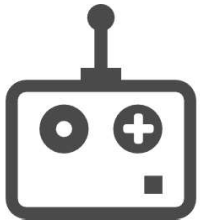
チャットモードの切り替え

シーンに応じた使い分けがカギ

	Ask	Edit	Agent
目的/用途	コードを変更せずに情報を得たい	コードの一部を修正・改善	プロジェクト全体にわたる変更
使い方	コードを選択して質問	コードの変更を具体的に指示	プロジェクト全体に関わる指示
適したシーン	ひな型のコードの意味を確認	小さな修正	ひな型の作成機能の追加

プロトタイプとはなにか

アイデアを形にするために作成されるアプリの簡単な形



目的

作ろうとしているアプリの機能のイメージを伝えやすくするため

特徴

アプリの完成系ではなく、試作品のイメージ
作ろうとしている機能が正しく実装されていればOK

プロトタイプの作成手順①

企画提案書を基にコンテキストファイルを作成

1.企画提案書に書いた内容を読んで思い出す。
2.ChatGPTを起動し、企画提案書の内容を貼り付ける。
3.次スライドにあるプロンプトをChatGPTに入力し、
　コンテキストファイルを作ってもらう。
4.デスクトップに「prototype」という名前のフォルダを作成する。
5.そのフォルダの中に「要件定義書.md」というファイルを作成する。
6.ChatGPTで作成したコンテキストファイルを「要件定義書.md」に貼り付ける。

プロトタイプの作成手順①：プロンプト

3.を行う時に下のプロンプトを使ってください

《ここの文章を消し、企画提案書の内容を貼り付ける》
上記の内容をGitHub Copilotに読み込ませて、
html.css.javascriptを用いてWebアプリを作ってもらおうと思っています。
コンテキスト用のマークダウンファイルを作成してください。
要件定義書としてふさわしい言い回しに変更してください。

プロトタイプの作成手順②

GitHub Copilotを活用し、プロトタイプを作成

7.VSCを起動する
8.VSC左上の表示タブにある「チャット」からチャットを開く。
9.チャットモードを「Agent」に変更し、
　次のスライドのプロンプトをコピーして貼り付ける。
10.GitHub Copilotが作成している間は待つ。
11.htmlファイルを起動し、アプリが作成されたことを確認する。
12.作成されていた場合、入力欄に「こんにちは」と入力し結果を確認する。
ここまでできれば「最低限の翻訳アプリの機能」は作成完了！

プロトタイプの作成手順②：プロンプト

9.を行う時に下のプロンプトを使ってください

要件定義書.md を読んで、HTML/CSS/JavaScript の静的アプリとして翻訳アプリを作ってください。
翻訳は MyMemory API を必ず使って、実際に翻訳結果が出るようにしてください。
翻訳結果はJSONの responseData.translatedText を画面に表示してください。

プロトタイプの作成手順②

GitHub Copilotを活用し、プロトタイプを作成

13.改めて企画提案書を確認する。
14.企画提案書に記載した自分たちのアプリの強みを
　実現できる機能を実装していく。
15.実装する際はGitHub CopilotのAgentモードのチャットや、
　コード補完機能を使う。プロンプトを考えたい場合はChatGPTも使用可能。

講師のデモ

実際に作業を行っている様子を見て参考にする

先生が実際に作業している様子を
よく見よう！
作業の流れをメモしておくこと！

ペアワークの進め方

2人で1つのプロトタイプを協力して作ろう

2人で1つ1つ 確認しながら進めよう！	1人に任せず交代で 操作をしながら進めよう	困った時は 講師に相談しよう！



困った時の解決策

生成AIを用いて困ったことを解消する

困りごと	解決策
アプリが動かない	コンソールログを確認 エラーの内容を生成AIに 貼り付けて原因を聞く
コードの意味が わからない	チャットモードを 「Ask」に変更 わからないコードを 貼り付けて意味を聞く

プロトタイプ作成チェックシート

プロトタイプが作成できたかチェックし、感想を記入しよう

企画提案書で決めた目的は反映されてますか？	
実装できた・できなかった機能を書いてください	
もしまだ時間があればどこを改善したいですか？	
プロトタイプを作成した感想を書いてください	
生成AIを使ってみた感想を書いてください	

本日提出するもの

プロトタイプ作成チェックシートを提出

プロトタイプ作成チェックシート

この講義の最終成果物なので必ず提出しよう！

目次(もくじ)

1 今日のゴールと先週の振り返り

2 生成AIの基礎的な知識

3 GitHub Copilotを使ったプロトタイプの作成

4 まとめ

3日目のまとめ

今日の内容はここを読んで思い出そう！

生成AIについて

生成AIは、プロンプトを入力するだけで、様々なものを生成してくれる現代に欠かせないパートナー。
扱う人間によって性能が大きく変わるので、注意点を守りながら積極的に活用しましょう。

GitHub Copilotについて

GitHub Copilotはプログラミングを得意とする生成AIの中で最も汎用性が高いものです。
コード補完やチャット機能など、様々な機能を活用していきながら、開発効率を向上させましょう、

プロトタイプについて

プロトタイプは、これから開発を行うアプリの機能面を説明するために作成される試作品です。
大切なのは機能面が動くこと、機能の説明ができることなので、アプリの全てを作る必要はありません。